

（学藝衆構想との関連性）

学藝衆の構想では、地域で何かを教えることができる方がいて、その方と教えて欲しいと思っている方を繋ぐものであると聞いている。部活動の地域展開と一緒に考えていくのか、分けて考えていくものかは検討が必要。

（運営体制について）

教員が担っていた大会運営業務に地域展開後も参加してくれる人材がいるのかは疑問。民間クラブにとって参入の一番大事な判断基準は金銭面。十分な指導料が必要である一方で、各家庭への負荷がかかり過ぎないようにするなど、落としどころが課題。また、指導者は研修を通して、最低限の子どもたちへの接し方や教え方について、一定の質の担保が必要である。最近では、寄付文化が日本にも醸成されてきており、楽器修理や遠征費等、民間の支援を受けられる可能性はある。備品を壊した時などのための保険についても検討が必要。

（吹奏楽について）

吹奏楽は多様な教室を利用するので、他校の子どもが自校に入ってくる点はセキュリティ対策の課題になる。活動日時は、現在の部活動ガイドラインに基づいて活動しているので、そこと乖離が無ければ、活動に影響はないと思う。学校の楽器は最低限の修理を繰り返して使用している状況。物価高騰や運搬代の上昇、本市所管施設の利用料等、要する費用への負担主体・補助の有無も確認が必要。また、地域展開後も指導者が現状同様に、すべての楽器は教えられないので、講師を呼ぶための費用も一緒に検討が必要。

（伝統文化・伝統芸能について）

小学生以上の学生等にも教えているところは多く、また遠隔地についても指導者の派遣は可能と考える。前回のワーキンググループ会議で、活動場所は既に教室として運営している個人が所有する施設でもいいとの話があったが、活動場所と指導者の関係を整理していただきたい。例えば、各流派の家元が団体を代表し京都版地域クラブの認可をいただいた場合、その団体に所属する各先生の活動場所も、団体が活動場所として認可していれば活動できるとしていただきたい。子どもたちが、希望する流派を選べる環境を整えてあげて欲しい。通常のお稽古代の目安は、一か月あたり1万円くらいかと思う。

伝統芸能関係は、休日公演が多いので休日に教えることは難しい。指導する場所は、和室や舞台等、土足でない空間が必要。舞台等を借りて指導するのであれば、使用料も発生する。国が示す参加費基準はプロに依頼できる金額ではない。研修について、技術面での指導研修は不要であるが、「教育」の概念はないため、子どもの発達段階に応じた研修が必要。

（総合文化部について）

知って欲しいと思う分野とマッチングする取組としてはいいが、吹奏楽や演劇等、参加者全員の継続的な参加が必須であるものについてはあまり向いていない。「ほんもの」に触れる機会になれば理想であるが、その区別をどうしていくのかは検討が必要。